

丸山景右の提言

全棟構造計算で安全を確保しよう



① 構造計算とは建物の安全性を確認する重要な業務です。

構造計算とは、地震・台風・積雪などの外的条件や積載荷重に対して建物が安全かどうかを確認する重要な業務です。安全・安心な住まいを提供するために構造計算は不可欠です。

② 構造計算は本来どのような建物にも必要です。

建築基準法第20条（構造耐力）で、すべての建物の構造について安全を確認してくださいとあります。『構造の安全確認』とは構造計算のこと。構造計算はどんな建物でも必要です。

③ 自然災害から住まいを守るには構造計算が不可欠です。

日本は地震列島、台風の進路、北国では豪雪の心配もあります。増加する自然災害の猛威から家族の生命を守るために自己責任で自然災害に負けない強い家を建てるのが肝心です。

④ 開放的な大空間を追求すると構造計算が必須です。

吹き抜ける土間やリビング、大きな窓、勾配天井の空間など開放的な空間を追求すると耐震性が置き去りになる心配があります。開放的な住まいこそ構造計算が不可欠です。

⑤ 建物全体のバランスを良くすることが大切です。

建物の強度は部分的に太い柱や硬い材を用いたら強くなるというものではなく建物全体のバランスが大切です。構造計算によってバランスの良い構造体をつくるのが可能です。

⑥ 構造計算により無駄なコストを省くことができます。

構造計算により適正な寸法の構造材を選択できるので、過大な梁、太すぎる柱など無駄なコストをかけず、建築費を抑えながら強く環境に優しい家を建てるのが可能です。

⑦ 大工さんの勘と経験を科学的に実証します。

木造軸組工法は古来より大工さんの勘と経験に依存して発展し受け継がれた大切な日本の文化です。木造住宅も構造計算により科学的な根拠を数値で確認できるので安心です。

⑧ 将来の増改築やリフォームのときに役立ちます。

新築時に構造計算を行えば、将来のニーズに対応し増改築やリフォームを行なうときに、残すべき柱や梁、撤去可能な壁などを簡単に判断でき、住まいのメンテナンスにも役立ちます。

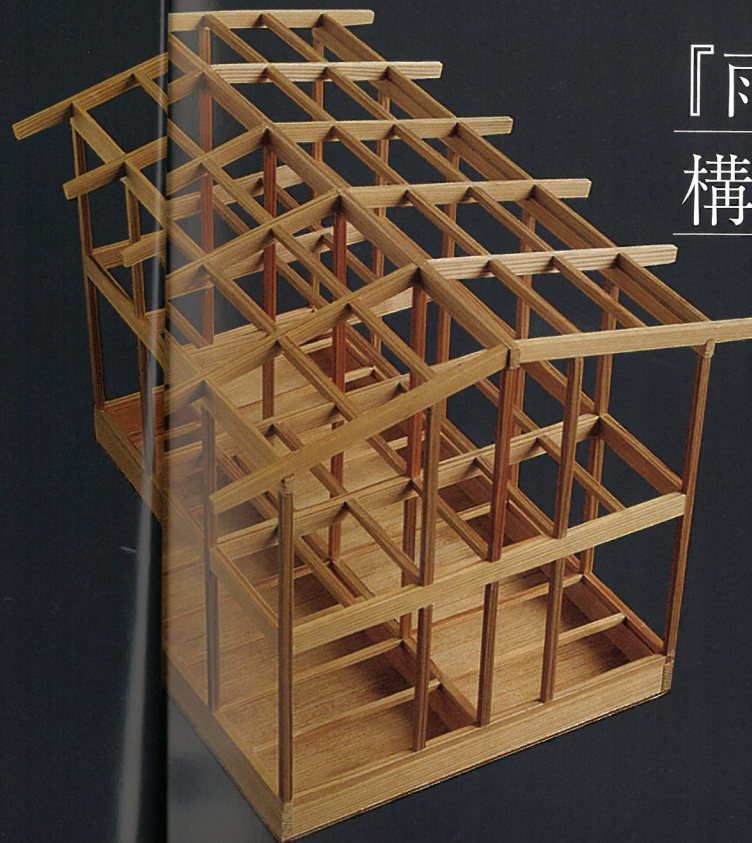
⑨ 資産価値の高い家をつくることができます。

新築時に構造計算を行えば、長寿命の家になるので安心して住まいを子どもや孫の世代へ引き継ぐことができ、また資産価値も高くなるので、将来売却するときにも高く評価されます。

⑩ 阪神淡路大震災で構造計算をした木造3階建が残りました。

阪神淡路大震災で木造3階建の家が無事だったのは木造3階建が確認申請時に構造計算書の提出を義務づけられるからです。構造計算を実施した住まいが地震に強いことは明らかです。

『雨楽な家』は全棟構造計算しています。



『雨楽な家』は無垢の木の構造美をありのままに見せる家。だからこそ1棟ごとに確実に構造計算を行なって「安全で安心な木の家づくり」を実現しています。『雨楽な家』は構造設計一級建築士の監修による「構造計算書」を付けて引き渡しています。

構造計算の重要性

無垢の木と自然素材の家だからこそ構造計算によって安全を確認することが重要だと私たちは考えています。



リックの構造計算

『雨楽な家』は推進本部で基本設計から実施設計、構造計算まで一貫して行ない安心の家づくりを進めます。



信頼の構造計算書

地震に強い家を建てるには確かに棟梁の長年の経験や勘も大切ですが数値による構造のチェックが肝心です。

